

# 埼玉学園大学・川口短期大学 機関リポジトリ

## Dramaturgy of the Ballet "Rund um Wien" by Josef Bayer

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-09-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 若宮, 由美 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/390">https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/390</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# バレエの劇作法

— 《ウィーン巡り》の改作をめぐって—

Dramaturgy of the Ballet “*Rund um Wien*” by Josef Bayer

若宮由美

WAKAMIYA, Yumi

On October 13, 1894 the ballet “*Rund um Wien*” by Josef Bayer was performed in the Vienna Court Opera in order to celebrate the 50th anniversary of the musician life of Johann Strauss junior. After that, this work continued being performed at the Vienna Court Opera over 64 times till 1906. But the ballet may have been revised after the premiere, because of the vulnerability of the story. In fact, the Austrian National Library possesses the three handwriting scores of the ballet. By solving the genealogy of sources, the author got the proofs that the ballet was revised after the premiere. It is concluded that “*Rund um Wien*” was revised several times. By revisions, the whole work became shorter and the scene where Strauss’s motifs were quoted was especially reduced 30 percent.

## 1 序

1894年10月13日、ウィーン宮廷歌劇場でヨーゼフ・バイヤー Josef Bayer (1852-1913) 作曲のバレエ《ウィーン巡り *Rund um Wien*》が初演された。台本はフランツ・ガウル Franz Gaul (1837-1906) とアルフレート・ヴィルナー Alfred Willner (1859-1929)、振付はヨーゼフ・ハスライター Josef Hassreiter (1845-1940) が担当した。同作品は、ヨハン・シュトラウス 2 世 Johann Strauss junior (1825-99) の音楽家生活50周年を祝う祝賀作品として制作された<sup>1)</sup>。初演にはヨハン・シュトラウスも出席し、シュトラウス音楽を引用した情景では、彼の肖像画をあしらった大き

な舞台装置が登場するなど、祝祭気分を盛り上げ、観客の喝采を浴びた(若宮 2011 : 165 参照)。シュトラウス祝賀作品としてのバレエ《ウィーン巡り》の性格、聴衆の反応、ならびに作品とシュトラウスの関連については、すでに昨年度の論文(若宮 2011)で論じた。

祝賀の盛り上がり伝える一方、新聞の初演評でも指摘されたように、「筋立ては貧弱であった」(1894年10月14日付 *Der Vaterland* 紙 Nr.282, p.6)。また、別の新聞には、「バレエ自体については、改作なども含め、もっとよく討議されるべき」と書かれた(1894年10月14日付 *Die Presse* 紙 Nr.282, p.11)。それでも、同バレエは初演後も上演回数を重ね、1906年までに64回上演された(若宮 2011 :

---

キーワード：バレエ、ヨーゼフ・バイヤー、シュトラウス、ウィーン宮廷歌劇場、劇作法  
Key words : ballet, Josef Bayer, Johann Strauss, Vienna Court Opera, dramaturgy

167)。筋立ての脆弱な機会作品が、10年以上も同じ形のまま上演され続けるということは考え難い。そこで、本稿では作品の改訂に焦点をあて、論考を進めることにする。

## 2 楽譜の系譜

《ウィーン巡り》の楽譜としては、Cranz社から出版された印刷譜が存在する。

- (0) **印刷譜P** : *Rund um Wien. Grosses Ballet in sechs Bildern nebst einem Vorspiel von Franz Gaul und A.M. Willner.* Hamburg; Brüssel: Aug. Cranz. ピアノ譜、89頁

**印刷譜P**はピアノ譜であり、当時の楽譜販売目録から1894年12月以前に出版されたことが判明している<sup>2)</sup>。

その他、オーストリア国立図書館に、《ウィーン巡り》の3つの手稿譜が残されている。その内の2つは自筆譜と判定されている。以下に各楽譜資料を挙げる。

- (1) **自筆譜A<sup>1</sup>** : *Rund um Wien.* (図書館所蔵番号 : A-Wn : Mus.Hs.36105. Mus) ピアノ譜、不完全、34.5×26.5cmの五線紙 27枚
- (2) **自筆譜A<sup>2</sup>** : *Rund um Wien.* (図書館所蔵番号 : A-Wn: Mus.Hs.36104. Mus) スコア、不完全、34×26cmの五線紙5枚
- (3) **手稿譜H** : *Rund um Wien.* (図書館所蔵番号 : A-Wn: OA.1116. Mus) 製本、182頁

**自筆譜A<sup>1</sup>**はピアノ譜であり、第3景、第4景、第6景を含む<sup>3)</sup>。「6月7日～7月末までに執筆」という書き込みがあることから、初演前に書かれた楽譜とわかる。作曲の段階でバイヤーはまずピアノ譜に曲を書くことがわかっている。このことから、**自筆譜A<sup>1</sup>**は

作曲段階の草稿とみなすことができる。**自筆譜A<sup>1</sup>**に書かれた音楽は、**印刷譜P**に含まれる。

**自筆譜A<sup>2</sup>**はスコアである。横長の五線紙5枚だけの楽譜で、年代を示す手掛かりはない。5枚の五線紙には2つの楽節が書き込まれている。両楽節ともに、最初の頁の五線紙の上部中央に“Einlage für Rund um Wien 1.Bild”と書かれ、後者には“Einlage für Rund um Wien 1.Bild”の左脇に、さらに薄い字で“Einlage R”という書き込みがある。ちなみに、“Einlage”はドイツ語で「挿入」の意である。前者は楽譜冒頭にWalzerと示され、変ホ長調3/4拍子の18小節Allegroとト長調16小節から構成される。この楽譜だけをみて、1.Bildすなわち第1景のどの箇所挿入すべき音楽かは判断できない。

後者はニ長調2/4拍子2小節に、ニ長調6/8拍子Allegroの24小節が続く。さらにト長調2/4拍子Allegrettoが8小節、次いでニ長調6/8拍子が16小節、イ長調2/4拍子Allegrettoの16小節、その後ト長調2/4拍子Allegrettoの12小節が書かれており、そこから第1景の最後のギャロップに戻るよう指示されている。第1景の最終ギャロップへの接続は音楽的に問題はない。したがって、ここに書かれた110小節の挿入箇所<sup>4)</sup>は明らかである。

**手稿譜H**は182頁にバレエ全曲が書き込まれており、ハードカバーで製本されている。大譜表がほとんどであるが、中には単旋律の楽譜も混在する<sup>5)</sup>。タイトル頁には、紙面真ん中に“Rund/um/Wien”というタイトルが黒文字で書かれ、赤鉛筆で文字に影が付けられている<sup>6)</sup>。同頁の上部左には“K.K.HOFOPER/Archiv N°1029”、上部右には“ARCHIV/DES K.K.OPERNTHETTERS”、上部中央には“21.

Novb.94”の日付が青スタンプで押されている。つまり、**手稿譜H**は初演から約1月後には存在していた楽譜であることがわかる。しかも、この楽譜には、**自筆譜A<sup>2</sup>**の2つの楽節が完全に書き記されている。したがって、**手稿譜H**は**自筆譜A<sup>2</sup>**よりも後に作成された楽譜と判断できる。



図1 楽譜の系譜

上述した4つの楽譜の系譜は、**図1**のようになる。いずれも1894年の楽譜と断定できる。

**手稿譜H**に、**自筆譜A<sup>2</sup>**の音楽が書き下されていることから、《ウィーン巡り》の最初の改訂が、初演から1ヶ月以内に行われたことは明白である。すなわち、**手稿譜H**は最初の改訂を反映した楽譜とみなされる。しかしながら、**手稿譜H**には、楽譜の完成以後に施されたとみられる修正がたくさん含まれる。楽譜に大きく斜線を引いたり、頁を繰れないように左下を三角に折りたたんで糸で綴じてある箇所<sup>7)</sup>もある。「糸で不要な頁を綴じる」行為は、演奏の際に続く小節に瞬時に移行するための細工であり、**手稿譜H**が実際の上演に使用されていたことを示唆する。167頁に“25. 1/2. 96”という鉛筆の書き込みがあることから、1896年に改訂が行われた可能性は強いが、**手稿譜H**の修正がすべて一度に行われたと断言するには至らない。何度かの改訂を経て、**手稿譜H**の最終稿が誕生したと考える

のが妥当であろう。

### 3 《ウィーン巡り》の場面構成

**手稿譜H**に**自筆譜A<sup>2</sup>**の音楽が完全に含まれているので、バレエ全曲を比較する際に用いるべき資料は、**印刷譜P**と**手稿譜H**ということになる。**印刷譜P**は初演を、**手稿譜H**は改訂を反映した楽譜である。ただし、両者を比較する前に、整理しておかねばならない点がある。すでに若宮2011で指摘したように、**印刷譜P**と初演時（1984年10月13日）のポスター<sup>8)</sup>、第2回公演（1894年10月20日）のポスター<sup>9)</sup>では場面区分が異なっているからである（若宮2011：161-162参照）。

#### 3.1 場面区分の混乱

**印刷譜P**は「Grosses Ballet in 6 Bildern nebst einem Vorspiel（6つの情景と1つの前景の大バレエ）」と題され、6つの情景に場面区分されている。初演ポスターでは「Ballet in 1 Vorspiel und 7 Bildern（1つの前景と7つの情景のバレエ）」、第2回公演では「Ballet in 1 Vorspiel und 8 Bildern（1つの前景と8つの情景のバレエ）」と記されている。筆者は昨年<sup>10)</sup>の論文で、**印刷譜P**の「第6景」が『第6景』と『第7景』に分割され、第2回公演では、「第2景」がさらに『第2景』と『第3景』に分割されたと結論づけた（若宮2011：162）。

それでは、**手稿譜H**の場面区分をみてみよう。オーストリア国立図書館のカタログでは、この楽譜のタイトルが「Rund um Wien. Ballett in einem Vorspiel und 7 Bildern（1つの前景と7つの情景のバレエ）」と表示されるが、実際の楽譜には単に“Rund um Wien”とだけ記されている。“Ballett in einem Vorspiel und

7 Bildern”は、図書館で補記されたものと想定される。実際の楽譜は「前景と6つの情景」に区別されている。ただし、当時の現場にも場面区分に関する混乱があったことは明らか



譜例1 手稿譜Hの第3景

である。

譜例1は、手稿譜Hの第3景冒頭である。紙面に大きくバツ印が付けられている。これは後年の改定の痕跡である。上部中央に「III<sup>tes</sup> Bild (第3景)」とあり、その右上に大きなクエッションマークが記されている。手稿譜Hが初演後の改定を反映しているならば、この場面は第4景とすべき「シュトラウス音楽の情景」にあたる。このクエッションマークは、当時の混乱を示す証拠といえよう。楽曲分析にあたっては、第2回公演以降のポスターに継続的に使用された「1つの前景と8つの情景」の区分に従った<sup>10)</sup>。そうすることで、改訂後のバレエ像が鮮明になると考えたからである。当然ながら、楽譜の場面区分と筆者の場面区分は異なることになる。両者を区別するため、本稿における筆者の区分は

ローマ数字を用いて表記する。例えば、譜例1は本稿では第IV景と表記される。

### 3.2 バレエ《ウィーン巡り》の構造

それでは、改訂によってバレエの構造がいかに変化したかを考察していく。元来、《ウィーン巡り》では、第IV景がシュトラウス音楽のメドレーであり、ヨハン・シュトラウス2世の音楽家生活50周年を祝うための特別な情景であった。この他、第II・III景もさまざまなウィーン音楽を引用した情景であり、残りの情景は基本的にバイヤーのオリジナル音楽で構成されている。例外は第VIII景に引用された〈Prinz Eugen Marsch (プリンツ・オイゲン行進曲)〉と〈Theresien Marsch (テレジア行進曲)〉である。

まず、オリジナル音楽に基づく序奏・前景・第I景の構造を表1、第V～VIII景の構造を表2に示した<sup>11)</sup>。表では、左端の欄にメロディーの始まる「小節番号」、次に「総計の小節数」を示した。小節数には反復小節分を含む。その右隣に《ウィーン巡り》における「テンポやジャンル表記」「調」「拍子」を示した。「小節番号」に“new”と記した部分は、改訂によって追加された音楽を指し、網掛けは削除された部分を示す。すべての追加音楽は、手稿譜Hに書き込まれているので、1894年11月までに追加されたと考えられる。削除はほとんどが手稿譜Hの完成以降のものである。ちなみに、上述した表記の原則は表1～表4に共通する。表1、表2では、右欄に《ウィーン巡り》から派生した単独曲に関する情報を示した。派生曲については第5章で詳述する。

表1から明らかのように、序奏、前景には大きな追加はなく、追加改訂はもっぱら第I景に集中している。第I景には総計153小節

バレエの劇作法

表1 《ウィーン巡り》序奏・前景・第I情景の構造／表2 《ウィーン巡り》第V～Ⅷ景の構造

表1 《ウィーン巡り》序奏・前景・第I情景の構造

小節番号	小節数 <sup>1)</sup>	バレエ《ウィーン巡り》			派生曲	
		テンポ/ジャンル	調	拍子	タイトル	使用箇所
<b>Introduction [序奏]</b>						
1	34	Allegretto	F	2/4	Marien-Walzer	IntroA <sup>2)</sup>
35	16x2	: :   <sup>3)</sup>	D	2/4	Marien-Walzer	IntroB
53	9	Allegro	D	3/4	Marien-Walzer	IntroC
62	32x2	:Walzer:	D	3/4	Marien-Walzer	W1A <sup>4)</sup>
97	64		G	3/4	Marien-Walzer	W1B
<b>Vorspiel [前景]</b>						
1	31	Allegretto	D	2/4		
31	8x2	:Marsch:	Eb	2/2		
42	14		G	2/4		
56	8	Ein wenig langsam	D	2/4		
64	4		D	3/4		
68	10		D	2/4		
78	11	Allegretto	D-	3/4		
89	32	Andante	D	3/4	Marien-Walzer	W1B
121	51	Allegro	C	3/4		
172	34		D	2/2		
192	24	Allegro	C	3/4	(=V-121小節) <sup>5)</sup>	
216	32x2	:Walzer:	D	3/4	Marien-Walzer	W1B'
249	16	Langsam	G	2/4		
265	34	Allegretto	C	4/4		
289	6x2	:Langsam:	C	4/4		
295	9	Langsam	A	3/4	Marien-Walzer	W1B''
304	10	Allegretto	C	2/4		
314	14	Allegretto	G	2/4	(=V-42小節)	
328	10	Andante	C	3/4		
338	74	Walzer	C	3/4	Marien-Walzer	W1B'''
412	16	Allegro	C	3/4		
new	12	Langsam	D	3/4	Marien-Walzer	W1B
428	21	Presto	C	3/4		
<b>I. Bild "In der Freudenau" [第I景]</b>						
1	9	Galop-Tempo	F	2/4	Jocky-Galopp	Intro
10	16x2	: :	F	2/4	Jocky-Galopp	G1A <sup>6)</sup>
26	16x2	: :	F	2/4	Jocky-Galopp	G1B
42	20x2	: :	Bb	2/4	Jocky-Galopp	TrioA
63	16x2	: :	F	2/4	Jocky-Galopp	G1A
80	24	(反復削除)	F	2/4	Jocky-Galopp	G1B
105	60	Nicht zu schnell	Bb	6/8		
new	12		Bb	2/4		
new	16		D	2/4		
165	35	Marsch	Bb	2/2		
200	24	Allegro	Bb	3/4		
224	8	Breit	Db	3/4		
new	8	Breit	Db	3/4		
231	7	Fanfare	Db	2/2		
238	21	Allegro-Allegretto	Bb	2/4		
259	18	Langsam	g	3/4		
new	8x2	:Gigerltanz:	G	2/4		
new	9	Allegro	trans <sup>7)</sup>	2/4		
new	16x2	:Walzer:	Eb	3/4		
new	16x2	:Walzer:	G	3/4		
277	10	Allegro	F	2/4		
287	24x2	:Lansames-Polka Tempo:	Bb	2/4		
new	24	Allegro	D	6/8		
new	8	Allegretto	D	2/4		
new	16	[Allegro]	D	6/8		

\* 1) Intro=Introduction 2) ||: :||=反復 3) W=Walzer 4) G=Galopp 5) V=Vorspiel 6) trans=転調 7) 小節数には反復分を含む 8) M=Marsch

表2 《ウィーン巡り》第V～Ⅷ景の構造

小節番号	小節数	バレエ《ウィーン巡り》			派生曲	
		テンポ/ジャンル	調	拍子	タイトル	使用箇所
new	12	Allegretto	G	2/4		
new	16	(=2行上の挿入部)	D	6/8		
311	8	Galop	Bb	2/4	Jocky-Galopp	Intro
319	16x2	: :	F	2/4	Jocky-Galopp	G1A
336	16x2	: :	F	2/4	Jocky-Galopp	G1B
352	6		F	2/4	Jocky-Galopp	Coda
<b>V. Bild "Im Salon" [第V景]</b>						
1	17	Allegretto	G	2/4	(=V-1小節)	
18	65	Allegro	C	3/4		
73	32	Andante	D	3/4	Marien-Walzer	W1B
105	10	Nicht zu schnell	A-	2/4		
115	41	Etwas langsamer	A-	2/4		
156	30	Tempo I: Langsamer	E	3/4	Marien-Walzer	W1B
185	47	Quasi Allegro	A	3/4		
217	6	Langsam	trans	2/4		
223	35	Quasi Allegro (場面転換)	c-g	3/4		
243	21		-D	3/4		
<b>VI. Bild "An der Reichsbrücke" [第VI景]</b>						
1	34	Allegretto	F	2/4	Marien-Walzer	IntroA
35	16x2	: :	D	2/4	Marien-Walzer	IntroB
53	32	Nicht zu schnell	D-C	3/4		
85	104	Charakterischer Gaunertanz	C	変化		
174	16	Langsam	C	2/4		
190	31	Etwas bewegter	C	2/4		
206	4	Tempo I	C	4/4		
210	6	Langsamer	trans	4/4		
216	6	Langsam	a	4/4		
222	10	Allegro	a	2/4		
232	4	Langsam	trans	4/4		
236	46	Allegro	trans	2/4		
282	16	Langsam	C	2/4	(=VI-174小節)	
298	37	Etwas bewegter	C	2/4	(=VI-190小節)	
320	7	Tempo I	C	4/4	(=VI-206小節)	
327	33	Nicht zu schnell	D	3/4	Marien-Walzer	W1A
360	12	Langsam	D	2/4		
372	24	Moderato	A	3/4		
<b>VII. Bild "Zwischenmusik" [第VII景] + VIII. Bild [第VIII景]</b>						
1	14	Allegretto	G	2/4		
15	20	Marsch-Tempo	A	2/4		
new	14		C-D	4/4		
28	22	Allegretto	D	4/4		
<b>[VIII. Bild] [第VIII景]</b>						
51	37	Prinz Eugen Marsch	Bb	変化		
88	40	Theresien Marsch	G	4/4		
109	8	Marsch Schluss	Bb	2/2	Hoch-Wien	Intro
117	16x2		Bb	2/2	Hoch-Wien	M1A <sup>8)</sup>
135	16x2		Bb	2/2	Hoch-Wien	M1B
152	16x2	Trio	Eb	2/2	Hoch-Wien	TrioA
169	34		Eb	2/2	Hoch-Wien	TrioB
188	16x2		Bb	2/2	Hoch-Wien	M1A
206	16x2		Bb	2/2	Hoch-Wien	M1B
223	16x2	Trio	Eb	2/2	Hoch-Wien	TrioA
240	16x2		Eb	2/2	Hoch-Wien	TrioB
256	13	Presto	Eb	2/2		

が追加され、情景全体が長大化している。一方、表2に示した第V景～第VIII景には、ほとんど追加がない。第VII景冒頭の27小節は、手稿譜Hが完成した時にすでに新しい音楽（14小節）に入れ替えられていた。それ以外に、目だった変化はみられない。一方、後年の削除は序奏・第I景で行われている。序奏では、大胆にもバレエ冒頭部分が削除され、第53小節から作品が始まるように改訂されている。また、第I景に追加された153小節の音楽は、最終稿はすべてが削除される結果になった。

次に、ウィーン音楽を引用した第II・III景を考察する。第II・III景の構造を表3に示した。これらの情景は、元来「第2景」として統合されていたが、第2回公演以降に、第II景「Das Volk und seine Lieder（民衆と彼らの歌）」と第III景「Das goldene wiener Herz（輝くウィーンの心）」に分割された<sup>12)</sup>。本研究では分割ポイントが明らかにならなかったため、本稿では第II・III景と表記する。表3では第III景の開始部を明示していない。

また、第II・III景では多くの引用が行われていることから、表3の右欄には引用曲の出典を示した。第456小節からの〈Marien-Walzer〉は引用曲ではなく、バレエからの派生曲であるので、作曲者の欄に「派生曲」と記して他と区別した。第II・III景の音楽には、ナンバーが付されているので、「テンポ／ジャンル」の欄にナンバー（No.）を記した。

第II・III景には、初演後1ヶ月以内に新たに総計139小節が追加された。とりわけ、第298小節前にまとまって130小節が追加された点が目をひく。この部分では、緩徐なレントラー風のワルツに続き、ツイーラーC.M.Ziehrer（1843-1922）のワルツ〈Wiener Madeln〉op.388（1888）が新たに引用されている。そ

の一方、後年の削除はきわめて少なく、削除の2箇所は、実質的には削除というよりも、他の音楽に置き換えられたにすぎない。

次に、第IV景の構造を表4に示した。この情景は、シュトラウスの音楽による情景である。表4では、小節数の次の欄に引用されたシュトラウス作品の情報を、「引用作品のタイトル」「作品番号」「使用モチーフ」「調」「拍子」の順序で示し、右端にバレエ《ウィーン巡り》での「調」と「拍子」を提示した。第IV景は12の場面から構成されているが、昨年<sup>13)</sup>の論文（若宮2011）ではすべての場面を特定できなかった。手稿譜Hの分析により、すべての場面が特定できたので、表4に示した。また、この情景は初演時には「Bild mit Musik von Johann Strauss（ヨハン・シュトラウスの音楽による情景）」と題されていたが、第2回公演以降は、「Ein Wohlthätigkeitsfest in der Rotunde（Die Wiener Tanzmusik）（ロトゥンデでの慈善祭：ウィーンのダンス音楽）」という表記に変更された。

第IV景に顕著な特徴は、初演後の追加は一切なく、むしろ大胆に削除されていることである。譜例1にみられるように、冒頭111小節が削除され、全体では317小節が第IV景から取り除かれている。10月20日の第2回公演ポスターでは、第IV景として、〈Der Frohsinn〉〈Alt-Wiener-Gavotte〉〈Sinngedichte〉〈Louischen-Polka〉〈Phantasiebilder〉〈Die Gemüthlichen〉〈Die schöne blauen Donau〉〈Walzer-Potpourri〉の曲名と、各曲を踊るダンサーの名前が記されている<sup>13)</sup>。ここに挙げられた曲目は、初演時のポスターと同一であるが、ポスターに名前があげられた曲は部分的な削除に留まっている。

バレエの劇作法

表3 《ウィーン巡り》第Ⅱ・Ⅲ景の構造

小節 番号	小節 数 <sup>1)</sup>	バレエ《ウィーン巡り》			引用曲	
		テンポ／ジャンル	調	拍子	作曲者	タイトル
<b>Ⅱ. Bild "Das Volk und seine Lieder" (Der Mariabrunner Kirchtag)</b>						
1	32	Marsch-Tempo	Eb	2/2		
28	4	Langsames Walzertempo	Eb-	3/4		
33	8	No.1: Andante	G	6/8	C.Lorenz	Pführt di Gott du alte Zeit
41	8	Allegretto [Moderato]	C	2/4	J. Sioly	I bin a echter Weaner
49	2	Moderato	E	6/8		
51	32	No.2: Walzer	E	3/4	A. Krakauer	Mein Liebchen wohnt am Donaustrand
83	4	Moderato	E	3/4		
new	6	Langsam	F	3/4		
87	6	Langsam	F	3/4		
93	18	[No.3] Mazur	D	3/4	C.Millöcker	Der Bettelstudent
110	3	Langsam	D	3/4		
113	20	No.4 & 5: Moderato	Bb	3/4	Jul. Stern	Dös is halt Weanerisch
133	8	No.6: Moderato	Eb	4/4	F. Fink	Die Damenkapelle
141	16x2	:Walzer:   <sup>*2</sup>	Eb	3/4		
157	8x2	No.7:   :Allegretto [Moderato] :	Ab	2/4	A. Göller	Jessas so solid
165	2	Mazur-Tempo: Langsam	Bb	3/4		
167	10	[No.8]	Bb	3/4	A. Krakauer	Die wahre Liebe ist das nicht!
177	36	No.9: Marsch	Eb	2/2	J. Schrammel	Wien bleibt Wien
213	18	No.10: Langsamer Walzer	Bb	3/4	C. Lorenz	Habn's Idee
231	16x2	No.11:   :Walzer:	A	3/4		
249	16	No.12: Polka, Moderato	D	2/4	W. Rab	Wiener Hamur
267	17	Walzer	D	3/4		
284	10	No.13: Langsam	A	3/4	J. Sioly	Das hat kein Göthe g'scheib'nm das hat ka' Schiller dicht
293	5	Bewegter	A	3/4		
new	4	Allegretto	D	2/4		
new	32	Langsamer Walzer	D	3/4		
new	20	Moderato	A	3/4		
new	74	Wiener Madeln Walzer	D	3/4	C.M. Ziehrer	Wiener Madeln
298	4	Marsch	E	2/2		
302	48	No.14 & 15	E	2/2	J. Schrammel	All's is uns recht
350	78	Quadrille, Allegro	A	2/4		
415	56	Galop	D	2/4		
456	137	Walzer	D	3/4	派生曲 Josef Bayer	Marien-Walzer: <sup>*3</sup> 1B+2A+2B+1B+1A
593	12	Allegretto (<V-265小節) <sup>*4</sup>	G	4/4		
605	16x2	:Allegro:	C	2/4		
621	36	Allegro	G	2/4		
658	6	Langsam	G	3/4		
663	32	Gewitter, Allegro	F-	4/4		
665	9		-D	4/4		
new	3		-D	4/4		

\* 1) 小節数には反復を含む 2) ||: :||=反復 3) Marien-Walzerは引用曲ではなく派生曲 4) V=Vorspiel

表4 《ウィーン巡り》第Ⅳ景の構造

小節 番号	小節 数 <sup>1)</sup>	引用されたシュトラウス作品					バレエ 《ウィーン巡り》	
		引用作品のタイトル	作品番号	使用モチーフ	調	拍子	調	拍子
<b>1. Bild “Gold Wien (黄金のウィーン)”</b>								
1	17	Die Publicisten	op. 321	Walzer: Intro-A <sup>2)</sup>	A	2/2	A	4/4
18	8	? <sup>3)</sup>		?			a	
26	10	Die Publicisten	op. 321	Walzer: IntroA <sup>1)</sup>	A	2/2	A	4/4
36	8	?		?			trans <sup>4)</sup>	4/4
44	49	Aus den Bergen	op. 292	Walzer: IntroA	Eb	3/4	Eb	3/4
93	16	Freuet euch des Lebens	op. 340	Walzer2B	Eb	3/4	Eb	3/4
109	3	?		?			(F)	2/4
112	16x2	:Par force:   <sup>5)</sup>	op. 308	PS <sup>6)</sup> :TrioB	Eb	2/4	Eb	2/4
132	16x2	:Die Zeitlose:	op. 302	PF <sup>7)</sup> PolkaA	Bb	2/4	Bb	2/4
149	24	Wein, Weib und Gesang	op. 333	Walzer: IntroA	Eb	4/4	Eb	4/4
173	16	?		?		3/4	Bb	3/4
189	20	Gavotte der Königin	op. 391	GavotteA+TrioA	Eb-Ab	4/4	Eb-Ab	4/4
209	25	Gavotte der Königin	op. 391	Gavotte:TrioA	Ab	4/4	Ab	4/4
234	8	Gavotte der Königin	op. 391	Gavotte:TrioA	Ab	4/4	Ab	4/4
242	20	Gavotte der Königin	op. 391	GavotteA	Eb	4/4	Eb	4/4
<b>2. Bild “Schönbrunn (シェーンブルン)”</b>								
262	13	Fledermaus-Polka	op. 362	PolkaA	D	2/4	D	2/4
275	10	Fledermaus-Quadrille	op. 363	Quadrille:FianlA	E	4/4	D	2/4
285	8	Methusalem Quadrille	op. 376	Quadrille:FinalA	C	2/4	C	2/4
293	7	Wildfeuer	op. 313	PF:TrioB	F	2/4	F	2/4
<b>3. Bild “Domayers Casino (ドームマイヤー・カジノ)”</b>								
310	16	Sinngedichte	op. 1	Walzer: IntroB	Bb	3/4	Bb	3/4
326	6	Sinngedichte	op. 1	Walzer: IntroC	Bb	3/4	Bb	3/4
332	32x2	:Sinngedichte:	op. 1	Walzer1A+1B	F	3/4	F	3/4
<b>[4. Bild]</b>								
365	32x2	:Fantasiebilder:	op. 64	Walzer3A+4B	Eb-F	3/4	Bb-F	3/4
<b>5. Bild “Kahlenberg (カーレンベルクの丘)”</b>								
411	16x2	:Die Gemüthlichen:	op. 79	Walzer3B	Eb	3/4	Eb	3/4
429	16x2	:Frohsinns Spenden:	op. 79	Walzer3A	C	3/4	C	3/4
<b>6. Bild “Tegetthoff Monument (テーゲットホフ記念碑)”</b>								
445	16x2	:Johaniskäfel:	op. 82	Walzer3B	F	3/4	F	3/4
461	56	Orakelsprüch	op. 90	Walzer1B+3A	E	3/4	E	3/4
<b>7. Bild “Wien von der Aspernbrücke aus (アスペルン橋からみたウィーン)”</b>								
501	82	An der schönen blauen Donau	op. 314	Walzer1A+1B+1A	D	3/4	D	3/4
<b>8. Bild “Belvedere (ベルヴェデーレ)”</b>								
588	49	Louischen Polka	op. 339	PF: Intro+PolkaA+B+A <sup>1)</sup>	C	2/4	C	2/4
<b>9. Bild</b>								
641	32	:Hofballtänze:	op. 298	Walzer1A	Eb	3/4	Eb	3/4
673	15	Flugschriften	op. 300	Walzer3A	Bb	3/4	Bb	3/4
688	17	Wiener Bonbons	op. 307	Walzer3A	Eb	3/4	Eb	3/4
<b>10. Bild “Ringstrasse (リング通り)”</b>								
705	40	Frühlingsstimmen	op. 410	Walzer1A	Bb	3/4	Bb	3/4
745	16	Wein, Weib und Gesang	op. 333	Walzer1B	Ab	3/4	F	3/4
761	32x2	:Königslieder:	op. 334	Walzer1A+2B	F	3/4	F	3/4
<b>11. Bild “Neue Burg mit Museen (新王宮と博物館)”</b>								
797	32x2	:Freuet euch des Lebens:	op. 340	Walzer1A	Bb	3/4	Bb	3/4
829	70	Neu Wien	op. 342	Walzer1B+2B+1A	Eb	3/4	Eb	3/4
883	30	Donauweibchen	op. 427	Walzer1A	Eb	3/4	Eb	3/4
<b>12. Bild “Entr’acte (間奏曲)”</b>								
913	14	Fledermaus Act1/Act3 No.12	RV 507 <sup>8)</sup>	Marsch	C	2/4	Eb	2/4

\* 1) 小節数には反復分を含む 2) Intro = Introduction 3) ? = 原曲不明の箇所 4) trans = 転調部分を示す  
5) ||: || = 反復 6) PS = Polka schnell 7) PF = Polka Française 8) RV = Rot 作品番号

表5 改訂による《ウィーン巡り》の各情景の割りの変化

	印刷譜		改訂による追加		改訂による削除		改訂後の状況	
	小節数	割合 (対全体)	小節数	割合 (対情景)	小節数	割合 (対情景)	小節数	割合 (対全体)
Introduction	203	5%	0	0%	66	33%	137	4%
Vorspiel	515	12%	12	2%	0	0%	527	14%
I Bild	526	12%	153	29%	153	29%	526	14%
II + III Bild	789	18%	139	18%	15	2%	913	24%
IV Bild	1121	26%	0	0%	317	28%	804	21%
V Bild	304	7%	0	0%	17	6%	287	8%
VI Bild	454	10%	0	0%	202	44%	252	7%
VII + VIII Bild	412	10%	14	3%	111	27%	315	8%
計	4324		318		881		3761	87% (対改訂前)

### 3.3 改訂による構造の変化

表5に「改訂による各情景の割合の変化」を示した。

バレエ全体を眺めた場合、追加は第I景と第II・III景に集中している。後年に実施された削除は、前景を除く、他のすべての情景に施されている。それでも、第II・III景の削除は格別に少ないといえる。第IV景、すなわち「シュトラウス音楽を引用した情景」は、初演では上演の目玉であった。この情景の上演途中から、ヨハン・シュトラウスに対する喝采が沸き起こり、ついには当人が舞台に登場して観客の歓声に応えたのである。それが一段落して、ようやく次の情景が上演された<sup>14)</sup>。シュトラウス音楽から構成される情景（第IV景）は、初演時には機会音楽としての命を運び、とくに強調されたと考えることができよう。表5からもわかるように、初演時にはこの情景はバレエ全体の26%を占めている。その後の公演において、この情景は縮小される運命にあった。

## 4 バレエの劇作法

### 4.1 バレエにおける物語

《ウィーン巡り》のあらすじは次の通りで

ある。「貧しいウィーンの娘マリーは、裕福な伯爵の誘惑に屈し、彼女を熱愛するルドルフをはねつけて父の家を去る。ところが、伯爵は競馬で全財産を失い、マリーは幸運な勝者である老スポーツマンのものとなる。競馬好きで無愛想な愛人とホイリゲを訪ねたマリーは陽気に踊るが、そこで父とルドルフに遭遇する。しかし、二人はマリーを寄せ付けない。良心の呵責から、マリーはアルコールに依存していく。やがてマリーを不幸が襲う。債権者がマリーの全財産を持ち去り、召使いたちも彼女の元を去る。絶望したマリーは家を出て、ドナウ河に身を投げる。間一髪でルドルフが彼女を救い、ルドルフと父はマリーを許す。」。(出典：1894年10月14日付 *Wiener Zeitung* 紙 Nr.237, p.6; 若宮 2011: 160より引用)。

この物語に従えば、「マリーが家出をする場面」は前景、「パトロンである伯爵と競馬に出かける顛末」は第I景、「ホイリゲの場面」が第II・III景、「マリーのアルコール依存と転落」が第V景、「自殺・救出の場面」が第VI景に相当すると考えられる。そうであるならば、第IV景と第VII・VIII景は物語と直接的な関連を持たない場面となる。それを裏付けるように、

「2つのフィナーレの場面」、すなわち第Ⅶ・Ⅷ景については、上掲新聞の同じ記事に、「脈絡なしに綴られる」（上掲紙、p.6）と書かれている。第Ⅳ景のシュトラウスの情景についても、公演ポスターに掲げられたダンサーの名前をみれば、配役表に名前のないダンサーによる踊りが続くと理解できる。例えば、第Ⅳ景の主要な「パ・ドゥ・ドゥ」<sup>15)</sup>は、シローニ嬢とティーメ氏によって踊られる。その他の楽曲も、配役表に名前のない人物もしくはアンサンブルによって踊られる。この事実は、第Ⅳ景が物語とは関連のない場面であることを示唆する。*Wiener Zeitung*紙にも、「このバレエの中程に、『ウィーンのダンス音楽』の情景がはめこまれていて、そこでシュトラウスのダンス・メロディーが次々と奏される」と報じられている（上掲紙、p.6）。つまり、シュトラウスの情景は物語とは関連ない場面であり、バレエに挟み込まれたガラの情景とみなすことができる。結局、《ウィーン巡り》において、物語を進展させるのは、前景、第Ⅰ景、第Ⅱ・Ⅲ景、第Ⅴ景、第Ⅵ景であった。

#### 4.2 バレエの物語性

1897年からウィーン宮廷歌劇場の芸術監督を務めたマーラー Gustav Mahler (1860-1911) は、バレエ嫌いとして知られていた。質の高い上演を目指した彼の眼には、バレエがオペラほどの芸術性を有していないようにみえたのであろう。

バレエの歴史を振り返ってみると、18世紀にフランスのノヴェール Jean Georges Noverre (1727-1810) が「バレ・ダクシオン ballet d' action」を提唱し、「一貫した物語を機軸として展開される劇としてのバレエ」の基盤が築かれた。19世紀にはその傾向が強まる。しか

しながら、バレエには「踊る」という体力的制約もあり、1つのナンバーの長さは概してオペラのアリアに比べて短い。登場人物が連続的に踊る時間も制限される。それに加えて、ウィーンには、「ある人物」や「ある職業」を描写するパントマイム的性格の強いバレエの伝統もあった。それゆえ、ウィーンのパレエは、必ずしも「物語性や演劇性の強いバレエ」の一辺倒ではなかった。まさにバイヤーのパレエは、その種のパレエに相当する。

第Ⅳ景に本筋に関係ない「シュトラウスの情景」を挿入したことも、フィナーレに脈絡のない第Ⅶ景、第Ⅷ景を展開することも、目新しい試みではなかったであろう。しかしながら、バレエの中程に、作品の26%を占める本筋とは関係のない場面があれば、観客の物語自体への関心は著しく散漫になる。初演はシュトラウスの祝賀が上演の主たる目的であったのだから、シュトラウスが脚光をあびるべく構成・演出されて当然である。それ以降の公演では、祝賀から通常上演へと上演目的が転じる訳であるから、今度は物語に力点が置かれ、音楽の改訂と演出の変更がなされたと想定される。それでも第Ⅳ景は残された。つまり、物語の中にある異種な部分は排除されずに、形を変えて残されたのである。《ウィーン巡り》にみられるような、「物語」と「異種なもの」との混合が19世紀末のウィーンにおける、バレエの劇作法のひとつであったと筆者は考えている。

#### 5 バレエからの派生曲

作曲家ヨーゼフ・バイヤーは、バレエ《ウィーン巡り》の印刷譜Pの発売と同時に、バレエのモチーフを用いた3曲の楽譜を、Cranz社から単独曲として発売している。そ

れらは、〈*Marien-Walzer* (マリーのワルツ)〉、〈*Jocky-Galopp* (ジョッキーク・ギャロップ)〉、行進曲〈*Hoch Wien* (ウィーン万歳)〉である。このうち、〈*Jocky-Galopp*〉は、フロイデナウ競馬場を舞台にした第Ⅰ景の冒頭部分をそのまま取り出した楽曲である(表1参照)。もう1曲、行進曲〈*Hoch Wien*〉もバレエのフィナーレをそのまま抜き出した楽曲である(表2参照)。

残る〈*Marien-Walzer*〉には注目すべき点がある。〈*Marien-Walzer*〉では、バレエの出だしのモチーフをワルツの序奏と第1ワルツに、第Ⅱ・Ⅲ景のモチーフを第2ワルツに使用している。しかし、第3・第4ワルツのモチーフはバレエには出てこないのである(表1、表3参照)。昨年の拙稿で、この点が「バイヤーの改作の可能性を示唆する」(若宮2011:166)と指摘した。しかし、それは誤りであった。改訂後の楽譜にも、第3・第4ワルツのモチーフは出てこなかったからである。つまり、これらのモチーフは、バイヤーが〈*Marien-Walzer*〉を編む際に、新たに付加したモチーフである<sup>16)</sup>。

## 譜例2 〈*Marien-Walzer*〉ワルツ1Bのモチーフ



一方、〈*Marien-Walzer*〉ワルツ1Bのモチーフ(譜例2)は、劇中で重要な機能を果たしている。なぜなら、同モチーフは、主人公マリーの示導動機となっているからである。次々にモチーフが紡がれていくバイヤーのバレエ音楽の中で、このモチーフだけは何度も再現され、その度にマリーの登場を示唆する。例えば、第Ⅴ景では同モチーフが不安定なハーモニーで奏され、「アルコー

ル依存となり、精神不安定なマリー」を表現している。このように、同一モチーフが劇と連動して、形を変えながら何度も登場することで、音楽が観客の劇の理解に貢献するとともに、劇に統一感をも与えている。

## 6 結論

本研究によって、ヨハン・シュトラウスの音楽家生活50周年を祝う機会作品として初演されたバレエ《ウィーン巡り》は、その後何度かの改訂を施され、初演稿よりも縮小された形で上演され続けたことが判明した。《ウィーン巡り》における第Ⅳ景、すなわちシュトラウスの情景は、本筋には関係のない情景としてバレエに挟み込まれ、ウィーンのダンスシーンを描写する絵巻として機能した。初演時に、全体の26%に及んだ第Ⅳ景は、最終稿では全体の21%にまで切り詰められた。シュトラウスの音楽家生活50周年を祝う音楽として、とくに象徴的であった彼の最初の作品、すなわち〈*Sinngedichte*〉op.1の冒頭引用(第Ⅳ景第310~325小節)も、後年の改訂によりバレエから排除されている。

その一方で、初演直後から物語の強化が行われ、第Ⅰ景と第Ⅱ・Ⅲ景が補強された。第Ⅰ景に挿入された153小節は、その後の改訂によって結局はすべてがカットされる運命を辿ったが、第Ⅱ・Ⅲ景は補強された形を保ち続けた。手稿譜Hに書き込まれた後年の改訂は、作品をスリム化する方向へと向かい、最終稿では作品全体の13%が削減された。その状況下で、初演時に全体の18%に過ぎなかった第Ⅱ・Ⅲ景は、最終稿で24%を占めるまでになった。つまりは、諸々の改訂を経て、バレエの中心軸は第Ⅳ景から第Ⅱ・Ⅲ景へと移行したのである。第Ⅱ・Ⅲ景のホイリゲでの

マリーとルドルフのすれ違いが、劇の中での重要な場面として再構築された訳である。

《ウィーン巡り》の上演と平行して、バレエからの派生曲も劇場外で頻繁に演奏されたとみられる<sup>17)</sup>。なかでも、〈*Marien-Walzer*〉はいくつもの編成で出版されていることからみて、需要が高かったと考えられる<sup>18)</sup>。〈*Marien-Walzer*〉は、《ウィーン巡り》の序奏と同じ音楽で始まり、バレエの主要モチーフを含む。〈*Marien-Walzer*〉を聴けば、自然とバレエ《ウィーン巡り》を思い出すような存在であり、相互補完的な宣伝効果をあげていたはずである。しかしながら、《ウィーン巡り》の最終稿をみると、両者に共通した冒頭部分がバレエからそっくり削除されている。同時に、第Ⅳ～Ⅷ景の各情景でも冒頭部分が大胆に削除された。この削除は、劇作法の理由だけでは説明がつかないだろう。もっと大きな外的要因の故と考えられる。今回の研究で筆者は明確な証拠を見つけ出すには至らなかったが、《ウィーン巡り》が1897年までは単独上演され、1898年以降は他作品との抱き合わせで上演されたことと関連があるのである。抱き合わせ上演に適う作品として調整されたと考えれば、短縮化の説明が見つかる。短縮化の結果、バレエはそぎ落とされ、物語の本筋をより強調する形に変貌したと結論づけられる。そして《ウィーン巡り》は、バレエ嫌いのマーラーが宮廷歌劇場芸術監督を務めた時代にも、継続的に同劇場で上演が続けられたのである。

## [注]

1) 祝賀行事の詳細については、若宮2011: 157-159を参照。

- 2) 詳細については、若宮2011: 161-162を参照。
- 3) 第3景、第4景、第6景は**自筆譜A<sup>1</sup>**の表記。《ウィーン巡り》の場面区分は上演によって異なり混乱がみられるが、**自筆譜A<sup>1</sup>**の区分は**印刷譜P**と一致する。
- 4) 最後の2つの2/4拍子の後に、2つめの6/8拍子16小節を反復するよう、言葉で指示されているので、挿入音楽は総計で110小節となる。
- 5) メロディーの脇に、そのメロディーを演奏する楽器略号が付されている。したがって、ピアノ演奏用の楽譜ではない。
- 6) /は改行を示す。
- 7) **譜例1**の右下を参照。この頁(90頁)から96頁までが糸で綴じられ、121小節が削除されている。同様の糸綴じは、他にもみられる。
- 8) 初演ポスター(1894年10月13日)は<http://anno.onb.ac.at/cgi-content/anno?aid=wtz&datum=18941013&seite=2&zoom=10>を閲覧。
- 9) 第2回公演ポスター(1894年10月20日)は<http://anno.onb.ac.at/cgi-content/anno?aid=wtz&datum=18941020&zoom=10>を閲覧。
- 10) 上演における場面区分に関しては、若宮2011のp.162とp.167を参照のこと。
- 11) 第Ⅷ景の開始部を示す客観的証拠はないが、**手稿譜H**で第Ⅶ景が「Zwischenmusik(間奏曲)」と題されていることからみて、第Ⅶ景はさほど長くはないはずであり、さらには音楽のつながりから判断して、筆者が定めた。
- 12) 第2回公演以降のポスターによる。
- 13) ポスターの曲名表記と**表4**の表記には違いがある。**表4**の表記は日本ヨハン・シュトラウス協会2006に従った。最後の〈*Walzer-Potpourri*(ウィーンのメドレー)〉は、第641小節の〈*Hofballtänze*〉以降の音楽を指すと考えられる。
- 14) 若宮2011のpp.165-166を参照。
- 15) 1894年の《ウィーン巡り》の上演(13回)は、一貫して同じキャストで上演された。シローニ Irene Sironiとティエメ Otto Thiemeはともにウィーン宮廷歌劇場のソロダンサー。2人は第Ⅳ景の〈*Die Gemüthlichen*〉(第411-428小節)と〈*Walzer-Potpourri*〉(第641小節以降)で「パ・ドゥ・ドゥ」

## バレエの劇作法

を踊った。《ウィーン巡り》の配役表は、若宮2011:160を参照。

- 16) バイヤーがバレエからの派生曲に、劇には登場しない音楽を挿入していたと確認できたことは、彼の他のバレエと派生曲の関係を分析する際の大きな手掛かりとなる。
- 17) 手稿譜 H に、Cranz社刊の〈*Marien-Walzer*〉の第1 ヴァイオリンのパート譜が1枚だけ挟みこまれている。この楽譜には“Stadtkapelle/ St. Pölten”の印が押されていることから、ザンクト・ペルテンの市立楽団が所有していた楽譜と推測される。楽譜上部に“Direction”と大きく書かれている。すなわち、この楽譜は奏者に対する指示書とみられる。指示の内容は反復の仕方についてであるが、この楽譜の存在は、バレエからの派生曲が単独曲として演奏会の場で演奏された証しとなる。
- 18) 1894年にピアノ版、1895年に大オーストラ版と小オーケストラ版、1896年にピアノ連弾版とチャター版、1897年に吹奏楽版とサロン・オーケストラ版がいずれもハンブルクのCranz社から出版されている。

### [Library Sigla]

A-Wn Österreichische Nationalbibliothek,  
Musiksammlung. Wien, Austria.

### [使用楽譜]

BAYER, Josef

1894a *Rund um Wien*. A-Wn: Mus.Hs.36105.Mus.  
(自筆譜 A<sup>1</sup>)

1894b *Rund um Wien. Grosses Ballet in sechs Bildern nebst einem Vorspiel von Franz Gaul und A.M.Willner*. Vollständiger Clavierauszug. Hamburg; Brüssel: Aug. Cranz. (印刷譜 P)

1894c *Rund um Wien*. A-Wn: Mus.Hs.36104. Mus.  
(自筆譜 A<sup>2</sup>)

1984d *Rund um Wien*. A-Wn: OA.1116. Mus. (手稿譜 H)

1894e *Marien-Walzer aus dem Ballet “Rund um Wien”*. Hamburg; Brüssel: Aug. Cranz. A-Wn: MS80692-4°. Mus. ピアノ譜

1894f *Hoch Wien. Marsch aus dem Ballet “Rund um Wien”*. Hamburg; Brüssel: Aug. Cranz. A-Wn: MS88246-4°. Mus. ピアノ譜

1894g *Jockey-Galopp aus dem Ballet “Rund um Wien”*. Hamburg; Brüssel: Aug. Cranz. A-Wn: F42.Welleba.308. Mus. ピアノ譜

n.d. *Marinen Walzer*. Hamburg; Aug. Cranz. Odeon 412.

### [参照新聞]

いずれもA-Wn: “ANNO[AustriaN Newspaper Online] Historische österreichische Zeitung und Zeitschriften” (<http://anno.onb.ac.at/>) で閲覧

*Das Vaterland*紙; *Neue Freie Press*紙; *Wiener Zeitung*紙

### [参考文献]

BLOM, Eric : 鍵山、由美 [若宮、由美] (訳)

1996 「バイヤー、ヨーゼフ」『ニューグローブ世界音楽事典』東京：講談社。第12巻, p.498.

HOFMEISTER (ed.)

1892 *Musikalisch-literischer Monatsbericht*. Leipzig: Hofmeister. <http://www.hofmeister.rhul.ac.uk/2008/content/database/database.html> で閲覧.

KEMP, Peter

2001 “Strauss”, in SADIE, Stanley (ed.) *The New Grove Dictionary of Music and Musicians*. 2<sup>nd</sup> ed. 29 vols. London: Macmillan. Vol.24: 474-496.

LINHARDT, Marion

2006 “Strauß”, in FINSCHER, Ludwig (ed.) *Die Musik in Geschichte und Gegenwart*. 21 Bände. Kassel: Bärenreiter. Personenteil Bd.16: 11-54.

MAILER, Franz

1998 *Johann Strauß (Sohn). Leben und Werk in Briefen und Dokumenten*. Bd.7: 1894

(1998). Tutzing: Hans Schneider.

日本ヨハン・シュトラウス協会

2006 『ヨハン・シュトラウス 2 世作品目録』東京:  
日本ヨハン・シュトラウス協会.

OBERZAUCHER, Alfred

1999 "Bayer, Josef", in FINSCHER, Ludwig (ed.)  
*Die Musik in Geschichte und Gegenwart*. 21  
Bände. Kassel: Bärenreiter. Personenteil Bd.2:  
551.

ROT, Michael (ed.)

1998- *Neue Johann Strauss Gesamtausgabe*.  
Wien: Strauss Edition Wien.

若宮、由美

2010 「ヨーゼフ・バイヤー作曲のバレエ《ドナ  
ウの水の精》: ヨハン・シュトラウスのモティー  
フとの関連」『埼玉学園大学人間学部紀要』第  
10号. pp.231-243.

2011 「ヨーゼフ・バイヤー作曲のバレエ《ウィー  
ン巡り》(1984) —ヨハン・シュトラウスの位置  
づけ—」『埼玉学園大学人間学部紀要』第11号.  
pp.157-169.